令和6年度
離島におけるデジタルノマド受入に向けた
体制整備に関する実証事業

事業実施報告書
（概要版）

国土交通省　九州運輸局

令和7年 3月

目次

1.事業目的 3
2.事業内容（概要） 3
3.事業内容（詳細） 7
- 3/1 デジタルノマドの継続的な受入に向けた体制整備計画の策定 7
  - ア：デジタルノマド受入体制の現況調査 7
  - イ：事業実施に向けたデジタルノマド受入体制整備計画の策定 17
- 3/2 モニターツアーの実施 18
- 3/3 コミュニティマネージャーの育成 20
- 3/4 効果検証及びデジタルノマド受入体制整備に係る今後の展開についての整理 22
- 3/5 関係者会議の開催 27

4.来年度以降の事業計画案 28
5.総括 30

1/事業目的

近年、デジタルノマド（国際的なリモートワーカー）の市場が世界的に急成長している。デジタルノマドは、長期滞在による地域消費の拡大やビジネスの経済効果が期待できることから、世界各国が誘致に向けた専用ビザを発給しており、我が国においてもデジタルノマド誘致に向けた在留資格を本年４月１日より施行したところである。

「観光立国推進基本計画」においては、観光立国の持続可能な形での復活に向け、観光の質的向上を象徴する、「持続可能な観光」、「消費額拡大」及び「地方誘客促進」の三つを柱に、「持続可能な観光地域づくり」、「インバウンド回復」及び「国内交流拡大」に戦略的に取り組み、全国津々浦々に観光の恩恵を行き渡らせることを目標として掲げているところ、消費単価が比較的高く、また、従来の価値基準での有名観光地であるかどうかに関係なく滞在地を選ぶ傾向のあるデジタルノマドの受入推進は、本目的達成に大きく資するものと考えられる。 特に、短期間旅行者の誘客にあたって比較的不利な状況にある離島にとっては外国人旅行者誘客の好機であり、九州でも一部の地域においてデジタルノマドの受入に向けた取組が行われているが、その取組内容や進捗は様々である。

本事業では、九州の離島の中でも国内ワーケーションの取組が盛んであり、デジタルノマド受入の体制が比較的整っている地域の一つである長崎県五島市を対象地域とし、デジタルノマドの特性・ニーズを踏まえた体験プログラムの造成をはじめとする受入体制整備のモデル実証を行うとともに、その手法を他の離島に横展開することで、九州の離島におけるデジタルノマドの受入体制整備を推進することを目的とする。

2/事業内容（概要）

（１）デジタルノマドの継続的な受入に向けた体制整備計画の策定

ア デジタルノマド受入体制の現況調査

滞在施設、コワーキングスペース、フリーWi-Fi、体験プログラム、二次交通、キャッシュレス決済、多言語対応、関係者の連携・役割分担、情報発信手法、コミュニティ マネージャーの確保・育成その他のデジタルノマド受入にあたって必要となる受入体制要素の整備状況について、具体的かつ定量的に五島市の現況を調査する。

イ デジタルノマド受入体制整備計画の策定

上記アの調査結果に加え、五島市がデジタルノマドを誘客する目的、受入に関する五島市の課題・特性等を踏まえ、持続的に実現可能なデジタルノマドの受入を行うための体制整備に係る計画を策定する。なお、計画には、現状、今回の実証事業実施に向けての計画及び今後に向けての計画をそれぞれ記す。

（２）モニターツアーの実施

上記（１）イで策定された計画の体制に基づき、次の要領によりモニターツアーを実施する。その際、体制要素の一つである体験プログラムについては、一つ以上新たに造成する。

ア 実施時期及び実施回数　令和６年１１月頃に１回以上

イ 実施場所　長崎県五島市内

ウ 招請対象、招請人数

（ア）デジタルノマドに精通したインフルエンサー４名以上

（イ）コミュニティマネージャーとして活動する者１名以上

エ 実施内容

（ア）デジタルノマドに精通したインフルエンサー

① モニターツアー参加前に他のデジタルノマドが参加を検討するにあたり必要な情報（滞在費用、宿泊施設、ワーク環境、体験プログラム等）について、デジタルノマドコミュニティなどのSNSやOTAサイト等、デジタルノマドの誘客に適した方法により情報発信を行う。

② 市内のデジタルノマド向け宿泊施設に滞在し、宿泊施設や市内のコワーキング スペース等を利用したリモートワークを体験する。

③ 体験プログラムに参加する。

④ 今後の誘客に向けて、招請したインフルエンサーのメディアや所属するコミュ ニティ等を介して、滞在の様子や地域の魅力等を発信する。

⑤ 関係者会議の場でデジタルノマドの特性を踏まえた効果的な情報発信手法について知見を披露する。

(次頁)

2/事業内容（概要）

イ）コミュニティマネージャーとして活動する者

① 市内のデジタルノマド受入環境及び本プログラムによりデジタルノマドが滞在している状況を確認し、今後の計画改善に向けた振り返りを行う。

② 滞在期間中、五島市がコミュニティマネージャーとして育成しようとする者にコミュニティマネージャーとしてのノウハウを教示する。

③ 関係者会議の場でコミュニティマネージャーに関する知見を披露する。

オ　留意点

・上記（ア）⑤および（イ）②③の実施内容については、それぞれの招請対象者と調整の上、必要に応じて代理の者が行うことも可とする。

・モニターツアー実施中に事故等が発生した場合の連絡体制を構築しておく。

・実施にかかる一切の手配及び運営を行う。

・モニターツアーに招請する者は、必ず旅行保険等(旅行期間中における病気・事故等による治療費や、人身傷害・物損等の個人賠償責任に対応するもの)に加入しているものとし、保険料として本事業費をあてる場合は、事前に監督職員へ了解をとる。

（３）コミュニティマネージャーの育成

五島市がデジタルノマドの受け入れにあたって必要なコミュニティマネージャーを育成すべく、人材育成に関する取組を事業期間中に実施する。

ア　対象者 ：五島市においてデジタルノマドのコミュニティマネージャーを目指す者

イ　対象人数 ：２名以上

ウ　実施内容 ：現役コミュニティマネージャーによるレクチャー、一般社団法人日本デジタルノマド協会主催の育成プログラムの受講、その他

（４）効果検証及びデジタルノマド受入体制整備に係る今後の展開についての整理

本事業の効果検証を定量的かつ定性的に実施し、実証結果及び改善点等について整理する。整理にあたっては、関係者会議での意見を踏まえ、五島市の次年度以降の展開に向けて参考となるものにするとともに、他地域への横展開もできるよう配慮する。

（５）関係者会議の開催

ア　上記（１）から（４）の具体的内容を検討するとともに、さらなる磨き上げにつなげることに加え、事業実施結果を共有するため、次の者で構成される関係者会議を開催する。開催回数は３回以上とし、開催方法は、対面、オンライン、両者を組み合わせたハイブリッド形式のうち、会議の内容に応じて、適切な方法を取ることとする。

※構成員 ・五島市その他の関係自治体 ・宿泊事業者その他の受入体制整備計画に関係する者 ・その他受入体制整備計画策定に必要となる者

イ 留意点 ・開催にかかる一切の手配及び運営を行う。

・特に、関係者会議開催後は都度速やかに議事録を提出する。

2/事業内容（概要）

事業フロー

（１）デジタルノマドの継続的な受入に向けた体制整備計画の策定
・デジタルノマド受入体制の現況調査
・デジタルノマド受入体制整備計画の策定
（２）モニターツアーの実施
（３）コミュニティマネージャーの育成
（４）効果検証及びデジタルノマド受入体制整備に係る今後の展開についての整理
（５）関係者会議の開催

契約決定

現況調査の実施・整備計画の策定

・（参考）デジタルノマド来訪
・滞在期間：8月5日～30日（予定）
・滞在場所：The Pier I Goto Nagasaki
・滞在人数：4名
→本事業の報告書に記載する
アンケート調査の協力を依頼する

・（参考）デジタルノマド来訪
・滞在期間：9月27日～30日（予定）
・滞在場所：ホテル カラリト （予定）
・滞在人数：5名程度
→本事業の報告書に記載する
アンケート調査の協力を依頼する

デジタルノマド来島・モニターツアー
・滞在期間：11月５日～８日
・滞在場所：ホテル カラリト
・滞在人数：5名程度

→アンケート調査の協力を依頼する
・モニターツアー実施後、速報値とりまとめ
・効果検証および体制整備計画の今後の展開の草案提出
・現況調査を含めた事業報告書の提出

事業終了

チームキックオフ
・開催時期：2024年8月9日
・アジェンダ：全体の事業概要説明、今後の流れ等

関係者会議（1回目）
・開催時期：2024年8月26日（月）
・アジェンダ：デジタルノマドの五島滞在に関する現状把握、課題整理など

情報発信（１）
・実施時期：9月～10月の間
・方法については別紙

関係者会議（2回目）9/30（月）
デジタルノマドの紹介と意見交換・モニターツアーの内容精査　など

関係者会議（３回目）
・開催時期：2024年10月29日
・アジェンダ：視察参加者の確定と最終内容確認

情報発信（２）
・実施時期：モニターツアー実施中～以降
・方法については別紙

関係者会議（４回目）
・開催時期：2024年12月10日（火）
・アジェンダ：モニターツアー実施後の速報 等

関係者会議（５回目）
・開催時期：2025年3月11日（火）
・アジェンダ：本事業の最終報告書の内容確認

2/事業内容（概要）

体制図

令和6年度 離島におけるデジタルノマド受け入れに向けた体制整備に関する実証事業、主な関係者は以下のとおり。

事業実施管理責任者

名称	株式会社 遊行
代表	大瀬良　亮
	土居 佑治・永吉 和磨 岡部百合子

関係者会議参加事業者（敬称略・順不同）

株式会社 MONTECASA 山家 正
株式会社カラリト 貞包 喬、川床 愛
株式会社いきいきファーム 屋代 綾子
株式会社 BORDER（Hotel Sou）桑田 隆介
Mitake合同会社 橋下 賢太
あこうハウス代表 アーロン・ニコラス・サットン
J House 古賀 和磨

五島市役所

五島市役所 地域振興部
地域振興部長 小田 昌広
地域振興部地域協働課 課長 谷合 眞治
移住定住促進班 係長 平野 梓
移住定住促進班 主査 谷 一也

九州運輸局

国土交通省 九州運輸局 観光部国際観光課
観光部長 進藤 昭洋
観光部国際観光課長 水下 真理
観光部国際観光課 国際係長 松本 典将
観光部国際観光課 有島 朱音

長崎県（オブザーバー）

長崎県地域づくり推進課
企画監 佐々木 悠
主任主事 中島 祥博

再委託先（運営・実施）

住所	〒905-0011 沖縄県名護市宮里1004 coconova
名称	株式会社NomadResort
代表者氏名	小吹 智広・松本 知也
再委託を行う業務内容及びその範囲	モニターツアーの企画造成、新しいアクティビティの企画準備、モニターツアーの催行、誘致のための自社情報発信（ウェブページの制作）

コミュニティマネジャー育成

住所	〒018-2305 秋田県山本郡三種町外岡字中嶋135番地141
名称	一般社団法人 日本デジタルノマド協会
代表者氏名	代表理事　中野 智恵・ 松川 哲也
電話番号	050-5532-8730
再委託を行う業務内容及びその範囲	コミュニティマネージャーの育成研修

情報発信

住所	〒8100001 福岡県福岡市中央区天神2丁目2番12号T&Jビルディング7F
名称	株式会社ECHO
代表者氏名	園田 遼弥
電話番号	非公開
再委託を行う業務内容及びその範囲	モニターツアー誘致のための自社情報発信（告知・PRリリースの配信）

問い合わせ先（事業実施管理責任者）
〒812-0038　福岡市博多区祇園町 8-13第一プリンスビル 1F・2F　株式会社 遊行
代表 大瀬良 亮　contact@yugyo.work

3/ 事業内容（詳細）

3/1 デジタルノマド受入体制の整備計画の策定

① 受入体制の現況調査

五島市におけるデジタルノマド受入環境の現状を調査し、以下の要素について分析を実施。

- 居住施設・ワーキングスペース：宿泊施設やコワーキングスペースの設備・利便性の調査
- 通信環境：フリーWi-Fiの提供状況など確認
- 体験プログラム：デジタルノマド同士の交流イベント、地域住民との文化交流、ビジネスインバウンド向けのアクティビティの調査
- 関係者の役割分担：地域事業者・自治体・受入施設間の連携体制の構築
- 情報発信手法と販売経路：ノマド向けのプロモーション戦略
- コミュニティマネージャーの確保・育成

② 受入体制整備計画の策定

上記の調査結果をもとに、五島市がデジタルノマドを誘致する目的、受入に関する課題・特性を踏まえ、持続可能な受入体制を整備するための計画を策定。実証事業の結果・今後の展開計画を明記し、五島市の長期的なデジタルノマド受入戦略を策定した。

受入体制整備計画

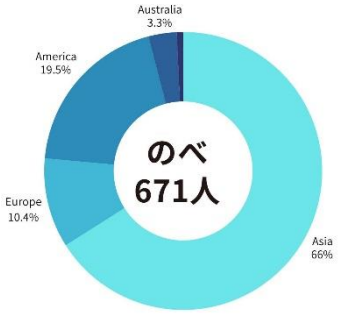
ア ：デジタルノマド受入体制の現況調査

デジタルノマド自身が世界から滞在先を選ぶ際に何を持って選ぶか、以下の５つの柱によって整理され、それらがどのように情報として広がるか考えていく必要がある。現況調査にあたり、以下の柱をもとに、海外のデジタルノマドの人気地となっている離島と比較した調査を行う。

デジタルノマドが滞在地を選ぶ際のポイント
遊行社が独自に作成（2023年）

「情報発信」「個人の興味関心」について

仮に、5つの柱を優位に満たしていたとしても、個人の興味関心を持つに至る情報が届いていなければ、そもそも「五島を訪れよう」というきっかけを生むに至らない。タイのパンガン島や、インドネシアのバリ島、あるいはポルトガル・マデイラ島など、世界にはデジタルノマドにおいて人気の離島が勃興してきている中で、五島はまだ無名の島であり、海外の離島、あるいは国内の沖縄県内の島と比較しても、現状情報発信は極端に弱く、個人の興味関心を持たれる状態ではない。



（表２） インバウンド来島状況：令和4年 五島市観光統計より作成

五島市における一般的な訪日外国人客数はコロナ前と比較して7分の１程度に留まっており、そもそも外国人観光客における認知度が低いことに加えて、その主たる出身国は6割以上がアジア出身であり、デジタルノマドの出身国の7割以上が欧米であることも踏まえると、五島市の情報発信は現状、非常に弱い状況にある。

来年度以降の受入体制整備計画策定において、５つの柱を元にした理想的なエコシステムを地域に落とし込むことを目標としながら、それぞれの項目の達成時期の目処を分類。この計画をもとに「今できること（体制整備計画に掲載するもの）と、長期的な課題とを分類し、今後の整備状況を検証する。

	【A-短期】 今年度中に整備	【B-中期】 来年度中に整備	【C-長期】 長期的に整備を検討
【１】 五島を知る →調べる	【A-1】デジタルノマドに必要な情報の初版の作成・整理。 交通アクセス、滞在場所、働く環境、滞在中のモデルプランの作成。	【B-1-1】情報発信のプラットフォームを作成（Webページの作成、ソーシャルメディア基盤整備） 【B-1-2】作成した情報発信基盤の継続運用体制の構築	【C-1】継続的なインフルエンサーの招聘と、他者による情報発信機会の醸成とその継続的な運用
【２】 来島準備と 問い合わせ	【A-2】滞在可能施設への英語対応基盤の整備	【B-2】デジタルノマドがアクセスしやすい情報プラットフォームに掲載する件数を増やしアクセスポイントを拡大する。 （例）Airbnb, Nomadlist等	【C-2】外国人向け長期滞在施設整備のための事業者側への奨励 （例）空き家を外国人長期滞在向けの施設に整備する場合のリノベーションをサポートする体制を整備する
【３】 来島後の 環境整備	【A-3】滞在中の働く場所やアクティビティの英語対応基盤の整備	【B-3】デジタルノマドがアクセスしやすい情報プラットフォームに掲載する件数を増やしアクセスポイントを拡大する。 （例）TripAdvisor,GetYourGuide等	【C-3】外国人対応が可能な店舗・アクティビティの件数を増やす （例）現在5件程度→3年後に20件程度に拡大していく。
【４】 離島後の 情報発信	【A-4】実施するモニターツアーで滞在後の情報発信を条件とする	【B-4】画像・広告を活用した広告キャンペーンの実施	【C-4】継続的な口コミによる滞在者向けキャンペーンの実施
【５】 コミュニティ	【A-5-1】モニターツアーにおけるコーディネータ役の期間採用 【A-5-2】コーディネータ育成のための教育プログラム（次頁）への参加を行う	【B-5】年間を通じたコミュニティの運用体制を整備する	【C-5】年間を通じたコミュニティの運用体制を民間の運営に完全委託

ア ：デジタルノマド受入体制の現況調査（続）

以下、5つの基本検討要素において左側に「モデルとなる島」右側に「五島の現況」について記載。

交通アクセス

デジタルノマドにとって「行きやすさ」は人気になっていく上での重要な要素になる。海外のデジタルノマドに人気の島へのアクセスについて整理すると以下のとおり。

項目	パンガン島 （タイ）	バリ島 （インドネシア）	マデイラ島 （ポルトガル）	五島市 （日本）
島外からのアクセス 利便性	★★★☆☆ （複数ルートあり）	★★★★★ （国際空港直結）	★★★☆☆ （国内線 or フェリー）	★★★☆☆ （フェリー or 飛行機）
近隣の首都圏から 直行便の有無	なし （サムイ島経由）	あり	あり	なし （福岡 or 長崎経由）
所要時間	バンコクから約4時間 (飛行機＋フェリー)	各国からの直行便あり ジャカルタから2時間	リスボンから 約5～6時間	福岡から40分 or 東京から 3時間
1日あたりの便数	飛行機 8便 フェリー 10便	飛行機 往復20便以上	往復10便程度	往復10便 （福岡・長崎）

五島列島は、福岡から船で1日 1便（夜行船）、飛行機で福岡・長崎から1日往復10便程度あり、手段としては他の島に比べても遜色はない。首都圏からの直行便がないのは不便ではあるが、インフラとしては劣っているものではない。（但し、英語での予約が難しいなど、多言語対応で課題は残っている。）

項目	パンガン島 （タイ）	バリ島 （インドネシア）	マデイラ島 （ポルトガル）	五島市（日本）
公共交通機関	×（ソンテウ・バイクタクシーのみ）不定期	△10分おきにバス運行 （但、渋滞多）	△ 30分～1時間 2024~ 全島カバー	○ 30分～1時間 110便/日
レンタカー	◎ （安価・手配しやすい）	○ （安価だが外国人には難しい）	○ （比較的高額）	△ （外国人の利用ハードルあり）
スクーター・バイク	◎	◎	○	△ 一部英語対応
タクシー・配車サービス	△ 一部利用可（Grabなし）	◎ Grab・Gojek	○ タクシー・Uber	△ タクシーは少ない 配車アプリなし
自転車・徒歩の利便性	○ 自転車利用しやすい	△ 自転車利用可だが不便	△ 徒歩は丘が多い	○ 自転車利用しやすい

飛行機で到着してからの島内の二次交通においては、国内観光客に対してもレンタカーを借りる以外の手段が脆弱であり、加えて「英語対応」「長期利用」に対応するレンタカーサービス事業者は限られている。Uberのような配車サービスもなく、公共交通機関も限定的であり、島内での移動アクセスの整備が喫緊の課題と言える。海外では公共機関の未整備や渋滞問題から「スクーター」の活用が活発であり、五島（あるいは日本）ではこのアイデアがないため、スクーターの利用が進めば独自の強みを持てる可能性がある。

ア ：デジタルノマド受入体制の現況調査（続）

滞在施設

デジタルノマドは観光客の滞在施設の嗜好とは大きく異なる。「仕事のしやすさ」、「予算」、「地域とのつながり」など、日常生活の拠点としての暮らしやすさが求められる。

項目	パンガン島（タイ）	バリ島（インドネシア）	マデイラ島（ポルトガル）	五島市（日本）
滞在施設の選択肢	ホテル・ゲストハウス・バンガロー	ホテル・ヴィラ・ゲストハウス・コリビング	ホテル・アパートメント・コリビング	ホテル・民宿・ゲストハウス
コリビング施設の有無	あり（beachubなど）	あり（Outpost, SoKool など）	あり（Nomad Islandなど）	あり（The Pier, Colorit 等）
価格帯（1泊あたり）	1,500～5,000円	2,000～8,000円	5,000～12,000円	5,000～15,000円
Wi-Fi環境	○（場所による）	◎	◎	○（場所による）
長期滞在のしやすさ	★★★☆☆（観光地化で家賃上昇）	★★★★★（長期滞在向け環境◎）	★★★★☆（欧州のノマド拠点として人気）	★★★☆☆（宿泊施設の選択肢が限られる）

パンガン島のヴィラ

マデイラ島のコリビング

バリ島の最新コリビング施設

長期滞在を好むデジタルノマドは、施設にランドリーやキッチンといった生活家電が整備された施設が好まれる。人気目的地となる離島には多くのノマド向け長期滞在施設があり、既にバリでは価格も高騰し1ヶ月あたり150,000円～が相場となっている。これらの多くは外国人オーナーが事業運営しており、離島の不動産売買に外国人がアクセスしやすい環境がある。またAirbnbなどのサービスから一棟貸しといった選択肢も豊富にあり、ヴィラとして借り上げることも可能。それらの施設にはジムやプールが併設されていることも多く、島ならではのリゾート感を味わえる施設が人気。

セレンディップホテル五島

カラリト五島列島

The Pier Coliving

J-House

五島の場合は既にデジタルノマド向けの住居施設（コリビング施設）としてThe Pier | Goto Nagasaki （弊社運営）が英語対応が可能なほか、他にも日本人向けシェアハウスも島内に数件ある。デジタルノマドを受け入れる上で、適した宿泊施設が多数あるが、夏季などハイシーズンになると満室・価格の高騰などが起きている。移住支援施策の充実もあり、長期滞在向け施設の選択肢は増えてきているが、海外ノマドが島に求める（プールやジムなど）インフラが整っている魅力ある施設は少ない。

ア ：デジタルノマド受入体制の現況調査（続）

滞在施設-2 滞在中の環境について

さらに、滞在施設以外にも滞在中の生活環境についても比較考察を行った。デジタルノマドにとって必要な生活環境のインフラ環境の良し悪しも、彼らが生活を行った後に口コミ等を通じて評価につながっていく。

項目	パンガン島 （タイ）	バリ島 （インドネシア）	マデイラ島 （ポルトガル）	五島市 （日本）
Wi-Fi利用可能な カフェの数	◎	◎	◎	△
水1リットルの価格	◎ 約30円	◎ 約30円	◎ 約80円	○ 約100円
スーパーマーケットの 環境	○ 小規模スーパーが中心 大手スーパーは少ない	○ 大型スーパー・コンビニ・市場が充実	○ 大手スーパーが複数あり、品揃えが豊富	○ 小規模スーパー・コンビニあり、大型スーパーは少ない
英語対応の充実度	○ 観光地は英語対応可 ローカルは限定	◎ 観光地は英語対応万全	◎ 英語対応が整備	△ 一部施設のみ対応
キャッシュレス対応	○ 観光地では普及、ローカルでは現金が主流	◎ クレジットカード対応	◎ クレジットカード対応	△ 一部店舗のみ対応

バリ島は全般的にインフラが充実しており「デジタルノマド天国」として総合評価でも突出している。マデイラ島も欧州の安定したインフラ基盤に加え、行政のノマド誘致策が功を奏し、環境の整備は充実している。パンガン島は物価の安さや気候の良さが魅力である反面、ノマド向けコミュニティや施設はまだ発展途中で、一部のカフェ等でWi-Fiの対応がなされている。一方、五島市は自然の静けさや治安の良さなど他地域にはない魅力を備えつつも、デジタルノマド受け入れのインフラ面では弱点である状況。特に「仕事場となるWi-Fi環境」、「言葉の壁」、「電子決済対応」の3点は、ノマドが長期滞在する上で障壁となり得る状況と言える。五島市が今後競争力を高めるためには、島内のカフェや公共施設での無料Wi-Fiスポット環境の整備が長期的に必要であり、コワーキングスペースの増設ほか、一般のカフェでのリモートワーク環境の整備を進める必要がある。

滞在していく上で、多言語対応も必須。観光案内や自治体窓口における英語対応の拡充、特に台風などが上陸する際に緊急時に備えた多言語コールセンターの周知など、デジタルノマドや外国人旅行者が安心して暮らせる体制づくりが求められる。キャッシュレス・カード決済の普及も現代のデジタルノマドには欠かせない。限られたキャッシュを両替する場所も銀行以外に限られており、地元店舗へのキャッシュレス導入支援を通じて現金を持ち歩かなくても生活できる島の環境整備が中長期的に求められる。他のアジア都市と比べて、水まわりの衛生環境などが欧米並みに整っていることをアジアの中での強みとしながら、他地域の成功事例も参考にインフラ整備を進めることで、五島市がデジタルノマドに選ばれる魅力的な離島へと成長することが期待される。

ア ：デジタルノマド受入体制の現況調査（続）

働く環境

デジタルノマドにとって、働くことが1日のうちに一番時間を要する「日課」の１つとなる。オフィスで働く環境とは違う、ノマドならではの「贅沢な」働く環境の提示が必要である。

	パンガン島（タイ）	バリ島（インドネシア）	マデイラ島（ポルトガル）	五島市（日本）
コワーキングスペース	10	50＋	10	3

DIGITAL NOMADS MADEIRA

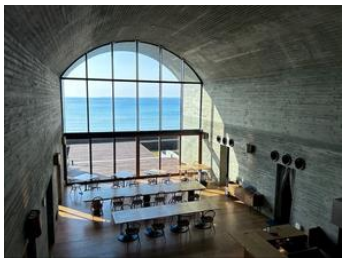
マデイラ島のカフェ

バリ島のコワーキングスペース

パンガン島のカフェ

コワーキングスペースとカフェ

デジタルノマドが働くスペースは滞在施設内で行うことも多いが「集中できる（高速Wi-Fi含）作業スペース」「美味しいコーヒー」「居心地のいいコミュニティ」の3つの柱を求め、それぞれお気に入りの働く環境を作り上げる。ノマドによって好みが分かれるので、複数の選択肢があることが重要であるほか、時差を考慮した24時間対応の環境を整備することも重要である。マデイラではデジタルノマドを受け入れるための無料コワーキングスペースが開設されており、そこからカフェなどリモートワーカーフレンドリーなカフェを案内してくれる。東南アジアのリゾート拠点にある多くのカフェはビーチサイドに面しており開放的で、必ず高速Wi-Fiが用意されている。都心にはないおおらかな世界観が、デジタルノマドの職場として選ばれる。


ホテルカラリト五島列島（カフェ）

セレンディップホテル五島

knitcoworking

mitake coworking space

五島市の場合、既に国内ワーケーション促進によるインフラが整備されており、働く環境における選択肢は複数用意されており充実していると言える。Serendip Hotel Gotoは街の拠点的存在であり、常にリモートワーカーたちが作業を行なっている。コワーキングスペース knitは中心市街地にあり、日本家屋の味わいのなかで地域コミュニティとの接点にもなる。ホテル カラリトはオーシャンビューのなかで仕事ができるが、ホテル宿泊客との混在を避けるため、利用時間に限りがある。mitake コワーキングスペースはパソコン専門店によるコワーキングスペースでオフィス利用も可能である。課題としては、自然環境を味わいながら業務ができるスペースが海外に比べて少ないこと、また個室の環境も限定的であることも課題としてあげられる。欧米出身のデジタルノマドが好む開放的なスペースで、広々と仕事ができることや、時差を考慮した24時間対応のコワーキングスペースの充実が今後、海外デジタルノマドを受け入れる上で課題と言える。

ア ：デジタルノマド受入体制の現況調査（続）

アクティビティ

仕事の合間を縫って、その土地ならではの体験を味わうのもデジタルノマドライフの大切な要素となる。五島市ならではの体験プログラムをどのように接触させるかが課題である。

項目	パンガン島 （タイ）	バリ島 （インドネシア）	マデイラ島 （ポルトガル）	五島市 （日本）
自然体験	トレッキング・滝巡り	火山ハイキング ライステラス散策	200を超えるハイキング 展望台巡り	星空観察・鬼岳ハイキング・川遊び
ウォータースポーツ	ダイビング	サーフィン	カヤック・ダイビング・ ホエールウォッチング	シュノーケリング 釣り・SUP
文化・歴史体験	寺院巡り 伝統市場	ヒンドゥー寺院巡り 伝統舞踊	ワインツアー 歴史地区散策	隠れキリシタン文化 城下町巡り
ウェルネス・リトリート	ヨガ・瞑想リトリート	ヨガ・スパ・デトックス リトリート	スパ・瞑想リトリート	禅体験・ヨガ
ナイトライフ・交流イベント	ビーチバー フルムーンパーティー	クラブ・ビーチバー 交流イベント	カフェ・ジャズバー 文化交流イベント	地域のバー・スナック 交流イベント
食文化体験	ローカルマーケット・シーフードBBQ	ローカル料理・ナイトマーケット	ポルトガル料理・ワインテイスティング	五島うどん体験 農業体験・クラフトジン

島に求められるマリンアクティビティと島ならではの文化体験を

デジタルノマドは知的好奇心が旺盛であり、日常として「ヨガ」「ハイキング」など、自身の身体的健康と、精神的健康の安定のためにアクティビティを求める傾向が強い他、地域ならではの文化・歴史・風俗を学び、文化の多様性を学ぶことを好む。海外のデジタルノマドの拠点では特にハイキングとヨガは必ずと言っていいほどアクティビティに用意されている。また、海外ではナイトアクティビティが盛んなのも特徴。

五島の場合「英語対応」が課題

五島市でも、地域住民との交流、自然体験、歴史・文化ツアー、釣りやアウトドアアクティビティといった多様なプログラムが提供されている。ヨガやハイキングなどデジタルノマドが好むコンテンツも豊富だ。「カラリト五島列島」では宿泊者に対して、無料で多様なアクティビティを提供している。「J House」では釣り体験、「セレンディップホテル五島」ではレンタルサイクルが用意されており、自然との触れ合いを求めるデジタルノマドにとって魅力的な要素である。「あこうハウス」ではSUPを提供するほか、宿泊者がBBQの体験も可能である。地域との交流が進めば、ナイトライフも、カラオケやスナック文化など、日本ならではの文化交流も可能。クラフトジンの蒸溜所「五島つばき蒸留所」では、教会と蒸留所のガイドツアーも行っている。中本製麺所では五島うどんの製麺体験などもある。

課題は、これらの豊かなアクティビティへの接点が言語障壁によってかなり限定的であることである。この言語障壁を乗り越えるためのコミュニティ、並びにコミュニティマネジャーの役割がかなり大きくなってくると考えられる。

釣り

星空鑑賞

灯台トレッキング

SUPやカヤックなど

ア ：デジタルノマド受入体制の現況調査（続）

コミュニティ

デジタルノマドの行き先を選ぶ際に、一番強い動機となるのが「居心地の良さを保証する知人がいる」コミュニティにある。海外の方々は食事を一人で食べることを好まず、滞在中もWhatsAppなどのコミュニティツールを活用して、交流しながら食事を楽しむ。

バリ島やパンガン島では、コワーキング施設やカフェが交流の場として機能し、自然発生的にデジタルノマド同士のネットワークが広がっている。一方、マデイラ島では「Digital Nomads Madeira Islands（DNMI）」が政府や自治体と連携し、コワーキングスペースの運営やイベントの開催を通じて、デジタルノマドの受け入れ環境を整備している。こうした組織的な支援により、マデイラ島は欧州のデジタルノマドにとって魅力的な拠点となっている。

Digital Nomads Madeira Islands
ポルトガル・マデイラ島
https://digitalnomads.startupmadeira.eu/

ポルトガル政府や地元自治体と連携し、マデイラ島をデジタルノマド向けの拠点として整備するためのプロジェクト。コリビング・コワーキングスペースの運営や定期的なネットワーキングイベントを通じて、長期滞在しやすい環境を提供している。また、専用のSlackコミュニティを活用し、ノマド同士の情報交換やサポート体制を構築している。

行政と民間との連携によるデジタルノマドの誘致事例

マデイラ島では、地方政府と民間団体（起業支援組織スタートアップ・マデイラなど）が協働し、2021年2月に世界初のデジタルノマド誘致プロジェクトを開始。コロナ禍の観光客激減を受け、新たな経済活性化策として長期滞在型の遠隔勤務者を呼び込むことを目的としている。このプロジェクトは、主にマデイラ自治州政府（地域政府）の資金によって実施され、開始時には約3万ユーロ（500万円）の公的資金が投じられたとされる。地方政府がインフラ整備を主導し、民間団体が運営やコミュニティづくりを担うという形で官民連携が行われている。

具体的な施策として、ポンタ・ド・ソル村に「デジタルノマド村」を開設、無料のコワーキングスペースを整備、備品の調達、高速インターネット環境の改善など受け入れ体制を強化したほか、マデイラ島をリモートワーカーに適した目的地として国内外にPRする取組みが行われた。コミュニティを通じて長期滞在者向けの住宅手配支援や、ネットワーキングイベントや、現地住民との交流プログラムを積極的に企画している。プロジェクト自体は少人数（主に3名程度）で運営されているが、政府によるデジタルノマド向け特別ビザの導入などを同時に進めることで大きなインパクトを生んだ。

結果、開始から1年で6,000人以上のデジタルノマドが訪れ、約3,000万ユーロ（約40億円）の経済効果をもたらした。特に、欧州を中心としたリモートワーカーに人気が高まり、マデイラ島はデジタルノマドの有力な選択肢としての地位を確立している。

ア ：デジタルノマド受入体制の現況調査（続）

民間でポップアップのコミュニティイベントを運営している海外の離島での事例

地域行政との連携は確認されないが、移住した外国人のプロジェクトファウンダーがコワーキングスペース、宿泊スペースをデジタルノマド向けに開発し、定期的にデジタルノマドの誘致につながっている事例がいくつか海外で確認される。

Digital Nomad Adventures（タイ・パンガン島）

https://digitalnomadadventures.com

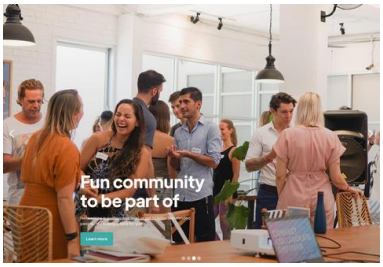
デジタルノマド向けのコミュニティイベントで、ビジネスネットワーキングとアウトドアアクティビティを融合させたプログラムを提供している。主催者はイギリス人のJoe。ビーチでのワークショップやヨガ、共同作業の時間を通じて、仕事と余暇のバランスを重視しながら新たなつながりを築けるのが特徴。このような定期的なイベントが、デジタルノマドの定着を促し、持続可能なコミュニティ形成に貢献している。

Nomad In Paradise（フィリピン・シャルガオ島）

https://nomads-in-paradise.com/

デジタルノマド向けのコミュニティイベントで、ビジネスネットワーキングとアクティビティを融合させたプログラムを提供している。主催者はドイツ人のJan。シャルガオ島に移住し、地域事業者と連携しながら運営を行っている。フィリピン出身者の参加も多く、地域との距離の近さが魅力。特段の支援はないものの、シャルガオ島の行政長（市長）も開会式で挨拶をするなど、これから更なる連携が期待される。

各地域におけるコミュニティマネジャーの役割



Tropical Nomad Coworking Space（インドネシア・バリ島）

https://www.tropicalnomad.org/

デジタルノマドに人気のバリ島にある有名なコワーキングスペースには20人以上のコミュニティマネジャー・が常駐しており、彼らが日々、利用者に向けて食事会などを企画している。

これに対し、五島市のデジタルノマドコミュニティはまだ形成段階にあり、デジタルノマド同士のネットワークは未成熟と言える。しかし五島市には地域住民との自然な交流が生まれやすいという強みがある。他の地域ではデジタルノマド同士のつながりが中心であるのに対し、五島市では地元住民と深く関わることができる点が今後の可能性につながる。

今後、五島市がデジタルノマドの拠点として発展するためには、定期的なミートアップやオンラインネットワークの構築が必要となる。そのためにはデジタルノマド向けの地域のコミュニティ拠点を整備していく必要がある。また、マデイラ島のように行政や地元事業者が主体となってコミュニティの運営をサポートする仕組みを整えることで、独自の「地域密着型デジタルノマドコミュニティ」としての強みを活かすことができる。

五島市が長期滞在型のデジタルノマドに選ばれるためには継続的なコミュニティ形成が不可欠であると言える。

ア ：デジタルノマド受入体制の現況調査（続）

情報発信

滞在施設やワークスペース、アクティビティなどの環境が整っていても、それがターゲット層に伝わらなければデジタルノマドは訪れない。情報発信には、SNSを活用した利用者自身の発信と、公式Webサイトやメディア記事、オンラインプラットフォームでの紹介の両面が重要。

バリ島やパンガン島では、InstagramやYouTube、TikTokなどのSNSが情報発信の中心となっており、滞在中のデジタルノマドが自らの体験を発信することで新たな訪問者を呼び込んでいる。また、ローカルのワークスペースやコリビング施設が独自に情報を発信し、宿泊施設やアクティビティの詳細を公式サイトやオンライン記事を通じて広めている。

マデイラ島では、「Digital Nomads Madeira Islands（DNMI）」が中心となり、公式Webサイトで滞在施設、ワークスペース、アクティビティ、イベント情報を体系的に提供している。また、LinkedInやSlackを活用し、デジタルノマド向けのオンラインコミュニティを構築することで、渡航前から現地の情報を得られる仕組みを整えている。さらに、「Digital Nomad Guide」や「Nomad List」といった国際的なオンラインプラットフォームに登録され、マデイラ島のデジタルノマド環境が広く認知されるようになっている。五島市としても、以下の情報発信施策を実施して情報拡散に向けた環境整備が必要と考える。

1.オンラインプラットフォームへの登録

a. 「Nomad List」「Digital Nomad Guide」「Getyourguide」など、国際的デジタルノマド向けプラットフォームやアクティビティプラットフォーム（OTA）に五島市の情報を掲載し、検索性を高める。

2.メディア記事の活用

a. 海外のデジタルノマド向けメディアに記事を掲載し、認知度向上を図る。

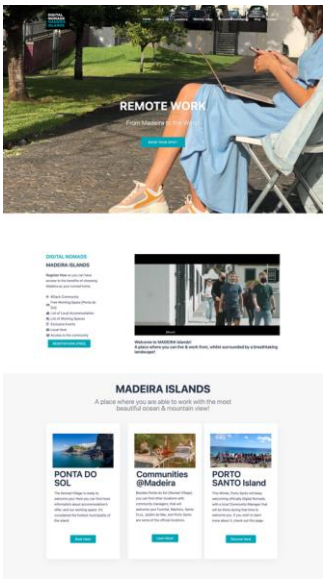
3.ソーシャルメディアでの情報発信

a. SNSでの発信力を持つデジタルノマドインフルエンサーを招待し、体験を発信してもらうことで、ターゲット層へのリーチを拡大する。

4.オンラインコミュニティでの口コミ拡散

a. SlackやFacebookグループを活用し、五島市に興味を持つデジタルノマドが事前に情報を収集し、現地での交流につなげられる環境を整える。

Webサイト

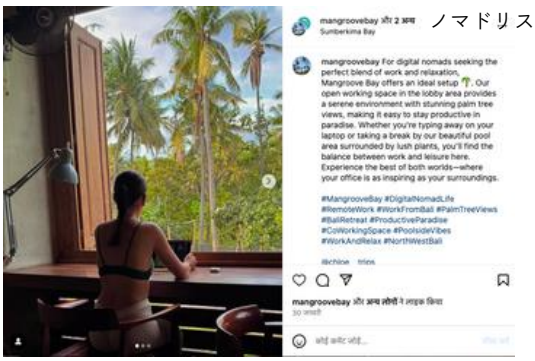


マデイラ島の情報サイト

ノマド関連メディア

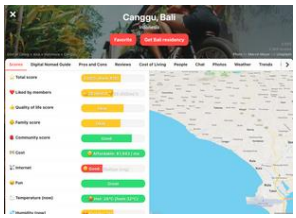
デジタルノマドのブログ記事

SNS



SNSでの投稿

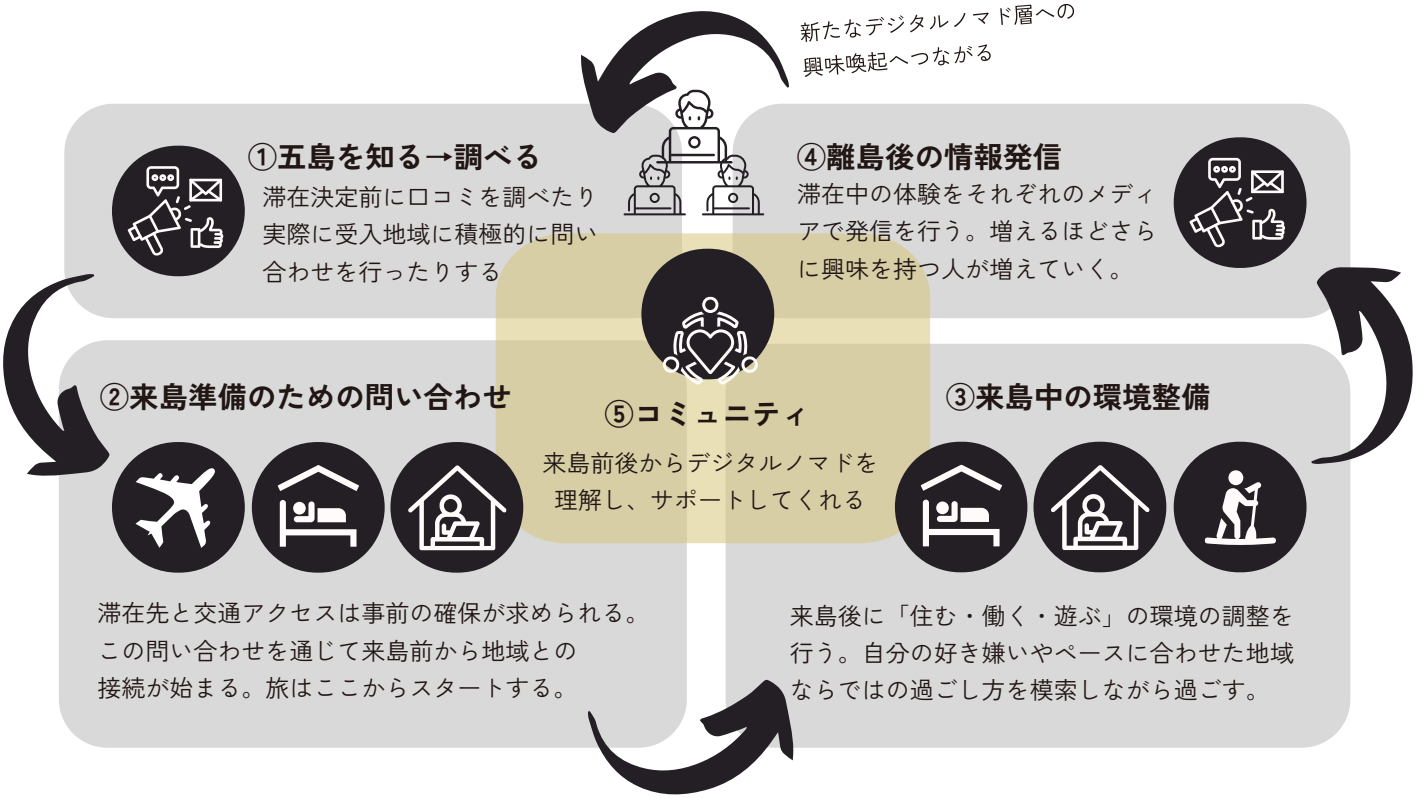
プラットフォーム



ノマドリストでの情報

イ：事業実施に向けたデジタルノマド受入体制整備計画の策定

以上の調査をもとに、五島市がデジタルノマドにとって魅力的な滞在先となるためには、単にワークスペースや宿泊施設を整備するだけでなく、デジタルノマドの滞在プロセス全体をサポートし、継続的な受け入れ体制を構築することが不可欠である。本計画では、デジタルノマドが五島市を知り、訪れ、滞在し、さらにはその経験を広めていくまでの流れを一貫して支援する「５つのステップ」を軸に、地域全体での受け入れ体制を整備する。



① 五島市を知ってもらう

デジタルノマドに五島市を認知してもらうため、戦略的な情報発信を強化する。「The Digital Nomad Asia」や「Colive Fukuoka」などのノマド向けメディアを活用し、SNSやYouTubeを通じたプロモーションを行う。また、影響力のあるデジタルノマドインフルエンサーを招待し、五島市の魅力を体験・発信してもらう。

② 来島準備のために問い合わせを行う

情報を一元化したポータルサイトを設置し、宿泊施設、ワークスペース、移動手段、アクティビティ、地域コミュニティ情報を提供する。さらにWhatsappを活用し、デジタルノマドが事前に情報収集・相談できる環境を整備し、受け入れ側とのスムーズなコミュニケーションを実施する。

③ 来島中の環境を整備する

五島市での滞在を快適にするため、ワーキング環境を充実させ、安定したWi-Fi環境を確保する。また、自然との体験、地域交流イベントなど地域の特色を活かしたアクティビティを提供し、リフレッシュ機会を増やす。

④ 離島後の情報発信を促す

デジタルノマドに五島市の滞在経験を発信してもらうため、ブログ記事やSNS投稿を促す。また、公式サイトでの体験記事の掲載や、五島市のSNSで発信者のコンテンツを共有する仕組みを構築。

⑤ コミュニティの拠点となる人材を育成する

持続的な受け入れ体制を構築するため、五島市内にデジタルノマドのハブ（拠点）を設置し、コミュニティマネージャーを育成する。ノマド向けの情報提供、イベント企画、地域住民との橋渡しを担う人材を確保し、行政と民間が協力した受け入れサポート体制を整備する。こうしたコミュニティ運営により、長期的なノマド誘致と定着を図る。

3/2 モニターツアー実施

実際に実施したモニターツアーの内容については、以下の通り。

実施時期：2024年11月5日（火）～8日（金）
3泊4日
実施内容：次頁に記載
実施体制：

- 安全、かつ円滑に実施・かつコミュニティマネジャー育成体制を以下の通りとし、事件事故、トラブルなくツアーを終了した。
  - 事業実施管理責任者：大瀬良 亮（株式会社 遊行）、ほか土居佑治、永吉和磨（同上、現地サポート）
  - 地域受入体制担当事業者：小吹智広（株式会社NomadResort）松本知也（同上）
  - コミュニティ育成担当者：中野智恵（一社）日本デジタルノマド協会（遠隔）、岡部ゆり子（株式会社 遊行）

① 招請対象と人数

- デジタルノマドに精通したインフルエンサー（4名）
  - Shu Akina （日本）
  - Stefanos Antipas（ギリシャ）
  - Elina Osborne（ニュージーランド）
  - Nick Vinken（オランダ）
  - Conrad Lin（カナダ） ※本事業対象外
- コミュニティマネージャーとして活動する者（1名）
  - Demi Lu（台湾）

Entrepreneur
Shu Akina , Japan
デジタルノマド歴10年目

デジタルノマドの教育とコミュニティを支援するプラットフォームNomad Universityの創設者です。これまでに50カ国以上を旅し、リモートワークやノマドライフの知識を共有しながら、人々とのつながりを築いてきました。自由と持続可能性を重視し、多くの人々に新しい働き方を提案中。「世界で最も影響を持つデジタルノマド 2024」選出された日本を代表するデジタルノマドインフルエンサー。

Marketing Specialist
Stefanos Antipas, Greece
デジタルノマド歴4年目

フリーランスのデジタルマーケター兼オンラインコーチであり、世界的インフルエンサーNas Dailyのマーケティングを担当。Colive Fukuokaのアンバサダーとして日本とその文化への深い理解を持ち、常にコミュニティにポジティブな影響を与える人物として知られています。五島列島への訪問経験が豊富でリピーターならではの視点から他の参加者とは一線を画す洞察を提供します。斬新で革新的なアイデアを次々と提案するその姿勢が高く評価されています。

Videographer
Elina Osborne, New Zealand
デジタルノマド歴10年目

冒険をテーマにした映像制作を手掛けるビデオグラファーであり、執筆や新しい土地を探検することを愛するクリエイターです。「その土地を歩くことで、そこに暮らす人々を最も深く理解できる」という信念を持ち、世界中を旅しながら、風景や文化、人々の物語を映像で記録しています。その独自の視点と情熱的なスタイルで、多くの視聴者にインスピレーションを与えています。

Videographer
Nick Vinken, Neitherland
デジタルノマド歴 4年目

今年もColive Fukuokaの公式ビデオグラファーとして2年連続で招待したビデオグラファーで、今回は五島列島の魅力をプロモーションビデオで伝えます。ドローン映像を活用し、島々の独自の美しさを際立たせる彼の作品に注目です。

Community Manager
Demi Lu , Taiwan
デジタルノマド歴10年目

5年以上のデジタルノマド経験を持つプロフェッショナルで、Co-Working Onlineやサステナブルブランド「Waste Studio」の創設者です。米国NGH認定ヒプノセラピストであり、AndAction認定ライフコーチ（上級資格）としても活動。台湾の地域活性化プロジェクトで5年間、松山、宜蘭、雲林などの地域支援に従事し、7年間にわたりLEXUSやUNIQLOなど大手クライアントを担当した広告コピーライターの経験もあります。多彩なスキルを活かし、教育、地域再生、持続可能な未来を目指しています。

Entrepreneur
Conrad Lin, Canada
デジタルノマド歴６年目

個人とプロフェッショナルの成長を支援する「The Better Life Framework」を通じた革新的な取り組みで知られる思想的リーダーです。10年以上にわたり、数百万ドル規模の企業の構築と運営、数千人規模のチームを率い、共通のビジョンに向けて導いてきました。その経験を通じて、哲学を実用的で具体的なアクションプランに洗練させています。2020年には「The Co-x3 Foundation」を設立し、自己理解の深化や潜在能力の解放、ポジティブな影響を与えるための包括的なプログラムを展開。世界中で多くの人々の人生を変えています。

3/2 モニターツアー実施

② 実施内容

- モニターツアー日程は下記の通り実施した。
  - a. 情報発信
    - i. The Digital Nomad Asia
    - ii. Nomad Cruise
    - iii. 各自参加者らのSNSでの更新
    - iv. ホームページ・Colive Fukuokaでの発信
  - b. リモートワーク体験
  - c. 体験プログラム参加
  - d. 滞在中の情報発信
  - e. 関係者会議での知見共有

日程	行程
11/5 (火)	7:40　福岡空港発 8:20　五島つばき空港着 9:00　コワーキング視察 11:00　福江歴史地区散策 12:00　鬼岳散策 13:00　ランチ@福江地区 15:00　半泊地区散策 18:00　チェックイン 20:00　夕食@福江地区 22:00　スナックナイト
11/6 (水)	起床　自由時間 10:00　サウナ or コワーキング 12:00　ランチ 14:00　山本二三美術館 16:30　大瀬崎灯台 19:00　夕食@富江地区 22:00　星空ツアー
11/7 (木)	起床　自由時間 06:00　釣りアクティビティ 10:00　ハイキング or コワーキング 13:00　ランチ 15:00　野菜収穫. 19:00　夕食BBQ・焚き火・花火
11/8 (金)	起床　自由時間 11:00　アロマワークショップ 13:00　ランチ 16:50　フェリーで長崎へ@福江港

情報発信

The Digital Nomad Asia

Nomad Cruise（ with Colive Fukuoka）

SNSでの更新

ホームページでの発信

リモートワーク体験

体験プログラム参加

滞在中の情報発信

関係者会議での知見共有

関係者会議より「ノマド向けの専用WebサイトやSNSを活用し、五島の魅力を積極的に発信が必要で『地域住民とのふれあい』や『クリエイティブな表現活動の場』としてのフックを明確にしていくべき」との声が上がった。

3/3 コミュニティマネジャーの育成

五島市のデジタルノマド受入に必要なコミュニティマネージャーを育成するため、以下の取組を実施した。

1.コミュニティマネジャー育成候補の選定

デジタルノマドの受入に際して、以下の2名を選出した。

浦山氏は本事業実施以前よりデジタルノマド誘致とそのコミュニティの運営に強い興味関心があり、既にデジタルノマド受入に際して五島市だけでなく沖縄県などで実績があった。

川床氏は、本事業を通じて勤務先であるホテルカラリトがデジタルノマド受入のための環境整備に注力を始めるところで、本事業を通じて自らコミュニティマネジャーの育成事業に興味を持ち、立候補につながった。この事業を通じて、2名の地域在住者が新たな取組に自ら挑戦心をもって臨んでくれたことが本事業の大きな成果の１つと言える。

浦山 佳菜
Kana Urayama
長崎県出身・公務員
五島市在住

川床 愛
Manami Kawatoko
長崎県出身・ホテルカラリト従業員
五島市在住

2.コミュニティマネジャー育成内容

コミュニティマネジャー育成講座（CMA）の受講

浦山氏が参加した台湾での視察の様子（Taipei Nomads Meetup 2024.8）

浦山氏が県庁職員と台湾在住デジタルノマドと五島を宣伝する様子

川床氏がチェンマイでデジタルノマド50人を前にプレゼンをする様子(2025.1)

（一社）デジタルノマド協会が主催する「コミュニティマネジャー講座」に浦山氏、川床氏の2名が受講し、1ヶ月半にわたってデジタルノマドのコミュニティの運営方法について学んだ他、実際にデジタルノマドたちと触れあい、海外の事例を学ぶべく浦山氏は台湾へ、川床氏はチェンマイへ赴き、デジタルノマドのコミュニティに触れ学ぶだけでなく、実際に五島市のプロモーションのために自ら前に立ち、プレゼンを行った。

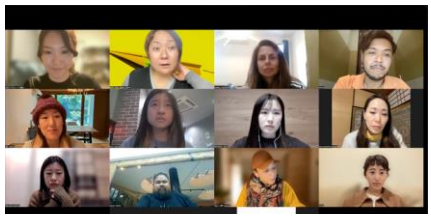
本事業において運営事業者が押し付ける事業者ではなく、「五島にいきたい」デジタルノマドを増やすべく、実際に五島市在住の市民が挑戦する場を生み出せたことはJDNAと本事業を共に歩んだからこそ生み出せた成果と言える。

3/3 コミュニティマネジャーの育成

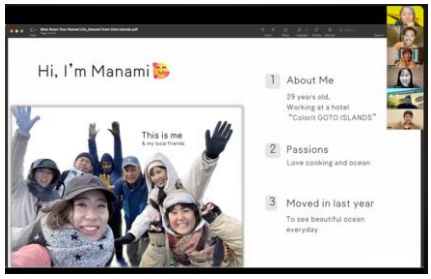
（一社）日本デジタルノマド協会
コミュニティマネジャーアカデミー実施内容

▶ メインセッション:

Day 0: オリエンテーション（2025年1月14日）
- JDNA & CMAの紹介
- 自己紹介。交流タイム



Session 1: 2025年1月21日（火）19:00〜20:30
「なぜコミュニティマネージャーが必要なのか？」
形式：オンライン講座（全て英語で実施）以下同
・講義＋意見交換



Session 2: 2025年1月28日（火）19:00〜20:30
「良いコミュニティマネージャーの条件とは？」

Session 3: 2025年2月4日（火）19:00〜20:30
「持続可能なコミュニティをどのように育てるか？」

Session 4: 2025年2月11日（火）19:00〜20:30
「プレプレゼンテーション・ブレイクアウトセッション」

Session 5: 2025年2月25日（火）19:00〜20:30
「オリジナルのコミュニティプラン発表」

▶ 視察（オプション）
Nomad Summit
Chiang Mai, Thailand
2025年1月17日〜19日（Nomad Summit Conference）
2025年1月20日〜26日（Nomad Week）

コミュニティマネージャーとしての基礎を学ぶだけでなく、実践的なプレゼンテーションや、持続可能なコミュニティ運営についての学びを深める内容。また、希望者はNomad Summit in Chiang Mai（2025年1月開催）にも参加、世界中のノマドとネットワークを広げる機会が提供された。

https://japandigitalnomad.com/cma202501/

3/4 効果検証及びデジタルノマド受入体制整備に係る今後の展開についての整理

本事業の成果を定量・定性の両面から評価し、今後の受入体制整備に向けた方向性を整理した。

参加者へのアンケートを実施

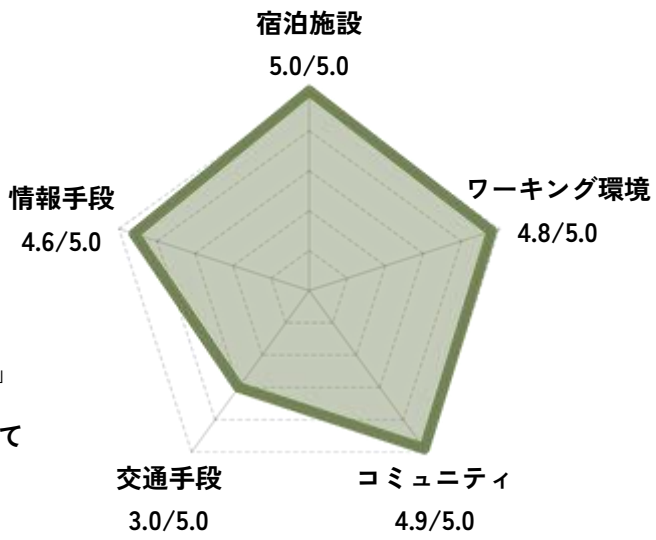
実施方法：オンラインアンケート
対象人数：10名　設問：12問（モニターツアー以外のデジタルノマド含）
アンケート：https://tally.so/r/n9ObbX

アンケートの設問内容

1. デジタルノマド歴（何年ですか？）
2. デジタルノマドとして年間訪問都市数
   a. （1年間で訪れる都市の平均数）
3. 現在の働き方（選択肢: 自営業 / 会社員 / 現在無職）
   a. （自営業の方）あなたの職種は？
   b. （会社員の方）あなたの職種は？
4. 宿泊施設の評価（1～5の選択式）
5. 交通アクセスの評価（1～5の選択式）
6. 働く環境の評価（1～5の選択式）
7. コミュニティ体験の評価（1～5の選択式）
8. 情報発信の評価（1～5の選択式）
9. 五島市で最も印象に残った体験は何でしたか（自由回答）
10. デジタルノマドとして五島市での推奨滞在日数（自由回答）
11. 五島市をデジタルノマドにとって魅力的にする「フック」は何だと思いますか？（自由回答）
12. ホスト（運営）にメッセージはありますか？（自由回答）

アンケート回答（概要）

- **回答者(10名）のプロフィール**
  - デジタルノマド歴 平均6年
    - 最大17年
  - 年間訪問都市数
    - 平均10都市
  - 働き方
    - 1名「会社員」ほか9名は全員「個人事業主」
- **デジタルノマド５つの柱の後藤の評価について**
  - 回答結果の概要は、右図の通り。



3/4 効果検証及びデジタルノマド受入体制整備に係る今後の展開についての整理

アンケート結果（詳細）

1.宿泊施設（Colorit & The Pier | Goto Nagasaki）

- **平均評価：5.0/5.0**
- Colorit（カラリト）
  - 🤩「快適で清潔」「島の自然と調和した設計」が評価され、高評価。
  - 🧐一部の参加者から「車がないとアクセスが難しい」という指摘あり。
- The Pier | Goto Nagasaki
  - 🤩宿泊自体は「とても良かった」
  - 🧐ただし「もう少し清潔だと良い」とのフィードバックあり。建物の入口や廊下の清掃状況がやや不十分で、最初の印象が良くなかったとの声。

2.ワーキング環境

- **平均評価：4.8 / 5.0**
- Colorit（カラリト）
  - 🤩「自然を眺めながらの作業」が心のリフレッシュにつながるとの声多数。
  - 🧐「集中しやすい個室スペースがもっとあると良い」という要望あり。
- The Pier
  - 🤩Wi-Fiの安定性や作業スペースの快適さが評価。
  - 🧐1階のカフェ（Serendip Cafe） は好評。2階のコワーキングスペース は「暗く、少し好きではなかった」という意見も。

3.コミュニティ体験

- **平均評価：4.9 / 5.0**
- 🤩ホスト（Kanaさん、Charlieさんなど）のホスピタリティが高く評価され、参加者全員が再訪を希望。
- 🤩参加者の声「コリビングの一番良かったところは、コミュニティでした。私はみんなから気にかけられ、たくさんのサポートを受けていると感じました。」「すべてのアクティビティが素晴らしく、社交的になって外出するよう強制されるのが気に入りました！」「中には英語が上手ではない人もいましたが、彼らは本当に努力してくれて、お互いに理解することができました。」「すべてが素晴らしかったです。些細なことはあったが、滞在はとても良かった！」
  🧐「言語が通じないところは寂しいと感じる」

4.交通手段

- **平均評価：3.0 / 5.0**
- 🧐「車なしでは移動が難しい」「レンタカーの手配が海外からの訪問者には難しい」「島内での快適で安価な移動手段が不足している」との指摘多数。
- 🧐五島へのアクセスに関する課題も：電車とフェリーを乗り継ぐと飛行機より高額になることがあり、ゲストには飛行機での移動を推奨。

5.情報アクセス

- **平均評価：4.6 / 5.0**
- 🧐ガイドマップの利便性は評価される一方で「訪問前に十分な情報が得られなかった」との声あり
- 🧐災害リスクへの懸念（台風・地震）に関する情報が不足しており、「どう対応すべきか事前に知りたかった」との意見あり。

6.ノマドが挙げたお気に入りの体験

- 自然との触れ合い：サンライズ・サンセット鑑賞、島特有の星空観察、山や海でのハイキング・サイクリング「日常の喧騒から離れ、自然と対話できる時間」が感動的だったとの意見多数。
- 🤩「バリ島のような観光地とは異なり、よりプライベートで心穏やかな時間を楽しめる」との評価。
- 交流イベント：「カラリトでの共同食事」や「地元祭り参加」が特に好評でコミュニティへの評価につながった。
- 特に印象的だった体験
  - ラーメン、星空観察、地域住民とのふれあい（日本人との交流）、花火大会、ひまわり畑、ビーチ、秘密の川での遊び、伝統的な日本式BBQ、お祭り体験、カラオケ、料理体験（寿司）

3/4 効果検証及びデジタルノマド受入体制整備に係る今後の展開についての整理（続-2）

②受け入れ事業者の声

- ホテルカラリト（貞包氏、川床氏）
- Hotel Sou（桑田氏）
- J House（古賀氏）

1.（主な宿泊地となった）カラリトチームの意見

a. 評価
- 初めてのデジタルノマド受入であったが、大きなトラブルなくスムーズに対応できた。
- 滞在者同士の交流が自然に生まれており「クリエイティブな表現活動の場」としてコミュニティの可能性を感じた。

b. 課題
- 朝食やアクティビティの時間が直前まで決まらず、運営側に負担がかかった。
- チェックアウトやコワーキングスペース利用のルールが十分に共有されていなかった。
- 焚き火の片付け時にスタッフと参加者間のコミュニケーション不足があった。
- コミュニケーションハブとしての役割を果たすために、地域との連携をより強化する必要がある。

c. 提案
- 情報発信の強化：五島の魅力を伝えるために、SNSやWebサイトでの発信を充実させる。
- 表現の場の提供：滞在者が五島の環境を活かしてクリエイティブな活動（写真、アート、音楽、執筆など）を行える機会を増やす。
- 運営体制の改善：アクティビティや朝食のスケジュールを事前に決定し、明確なルールを設けることでスムーズな受入を目指す。

2.桑田氏（Hotel Sou）の意見

a. 評価
- 五島の地域住民の「人の魅力」がノマド誘致のフックになり得ると感じた。地域との関わりを深めるため、観光ガイドブックではなく「人を中心にしたガイドブック」が有効ではないかと考えている。五島に移住者が増えている背景には「カリスマ島民」の存在があり、地域の人との交流がノマド受入においても重要になると感じた。

b. 課題
- 長期滞在者が増えると、「自由に過ごしたい」という要望が増える傾向がある。ノマドに対する過度なお節介を避け、適度な距離感を持つことが求められる。

c. 提案
- 「ほっといてほしい」スタンスの確立：最低限のアナウンスのみを行い、あとは自由に行動させる方が滞在満足度が向上する。
- 地域住民との交流イベントの強化：「カリスマ島民」との交流機会を増やし、五島の「人の魅力」を伝える企画を実施する。

3.古賀氏（J House）の意見

a. 評価
- 交通手段がノマド受入において大きな課題であることを再認識した。五島は長期滞在者にとって魅力的な環境であるが、移動手段の不便さがネックになっている。

b. 課題
- レンタカーの手配が海外からの訪問者にとって難しい。島内での移動が車なしでは不便であり、スクーターの貸出を含めた解決策が必要。

c. 提案
- スクーター貸出の導入：長期滞在者向けに安価で利便性の高い移動手段を提供。
- 送迎サポートの強化：宿泊施設側で移動をサポートする仕組みを検討。
- 交通案内の充実：事前に移動手段の情報を英語で提供し、初訪問者の不安を軽減する。

受入事業者からの総合的な提言

◎情報発信の強化：ノマド向けの専用WebサイトやSNSを活用し、五島の魅力を積極的に発信。「地域住民とのふれあい」や「クリエイティブな表現活動の場」としてのフックを明確にしていく。

◎移動手段の改善：レンタカー手配の簡易化、スクーター貸出の導入、送迎サポートの拡充。初訪問者向けに交通案内を英語で提供し、移動の不安を解消する。

◎自主性を尊重したコミュニケーション

参加者の自主性を尊重し「ほっといてほしい」スタンス。朝食やアクティビティのスケジュール、など施設側の運営コミュニケーションと、外部住民との交流イベントの両方でのコミュニケーションを強化していく。

3/4 効果検証及びデジタルノマド受入体制整備に係る今後の展開についての整理（続-3）

③運営側のフィードバック
- 株式会社遊行
- 株式会社Nomad Resort
- コミュニティマネジャー
- 九州運輸局

1.九州運輸局の意見

a. 評価
- BBQでの焚き火 がモニターツアーの象徴的な体験となり、参加者の交流促進に大きく貢献 した。
- ツアー全体を通じて、五島の自然や地域住民との触れ合いが非常に良い印象を与えた。五島の魅力が改めて確認できたことが大きな成果といえる。

b. 提案
- 今後も、焚き火のような「象徴的な体験」をツアープログラムに組み込み、参加者同士の交流を促進する。
- 地域住民との交流イベントをより強化し、五島ならではのホスピタリティを活かす。

2.Nomad Resort （小吹氏）の意見

a. 評価
- 五島を「長期滞在型のノマド拠点」として確立できる可能性を感じた。
- 地の食材や酒を楽しむことで、五島の食文化を十分にアピールできた。
- 自然と地域住民との交流機会（BBQ、釣り、野菜収穫、アロマづくり、写真現像、AKO HOUSE訪問など非日常的な体験）をバランスよく提供できた。
- 柔軟なスケジュール調整が可能で、最も綺麗な夕日や星空を堪能してもらえた。

b. 課題
- 大人数が入れて地元カルチャーを感じられる飲食店の選択肢が少ない。
- アクティビティを詰め込みすぎたことで、参加者の仕事時間や休憩時間が不足。
- 天候に左右されるアクティビティの設計が難しく、スケジュール調整が必要だった。特に悪天候による交通遮断の対応が難しく、特にフェリーや飛行機の手配が複雑化した。（例：船の故障や台風による足止め）
- 移動手段として車が必須であり、ドライバーやレンタカーの手配が不可欠だった。
- 受入施設の柔軟な運用（チェックアウト時間の自由度、共同スペースの最適化）が必要だった。
- 既存のワーケーション施設の活用に加え、ノマド向けに特化した新しい受入モデルの開発が必要。

c. 提案
- 余裕のあるスケジューリング を心掛け、参加者が自由に過ごせる時間を確保する。宿泊施設と連携し、フレキシブルなチェックイン・チェックアウト制度 の導入を検討。
- 五島ならではの「クリエイティブ体験」の強化（アート制作、写真撮影、手作り体験など）の多様化。地元企業との連携を進め、デジタルノマド向けのローカルビジネスコラボレーション を企画したい。
- 悪天候時の対応策 を整え、代替アクティビティの充実を図る。
- レンタカーや送迎の手配を簡易化し、海外訪問者でも利用しやすくする。
- 共同スペースの設計を見直し、コワーキング＋コミュニティ交流がしやすい環境を整備。

3.遊行（Yugyo Inc.）の意見

a. 評価
- バリとは違う島の「静けさ」が売り（バリはバイクなど交通渋滞がひどく、静かとは言えなくなってきている）ここに五島の商機があるように思う。
- カメラマンが多いおかげで、写真を撮る楽しさが、五島における１つのフックになる可能性があると感じた
- 台湾人ガイドが在住していることで、台湾人ノマドの満足度が非常に高くなっていた。これは強みだと感じた。
- コミュニティマネジャーの育成プログラムにおいて2名の候補が著しい成長を遂げたことは本事業の１番の実績の１つ。うち1人はプログラムを通じてチェンマイ視察に参加し、五島列島を強くPRする機会を得た。

b. 課題
- SNSやWebサイトを活用した情報発信が重要。
- デジタルノマド向けの受入体制を整えるため、「五島ならではのフック」 を明確にする必要がある。
- 交通インフラの整備が、受入の拡大に向けて鍵となる。

c. 提案
- デジタルノマドが撮影した写真や動画を活用し、SNS・Webサイトを活用した情報発信を強化。
- 交通手段の明確な案内（英語対応のガイド作成、スクーター貸出の拡充）。
- 五島の特色（自然、文化、地元コミュニティとの交流）を生かした 「長期滞在向けの体験プログラム」 の策定。

3/4 効果検証及びデジタルノマド受入体制整備に係る今後の展開についての整理（続-4）

アンケート結果を受けて、五島の可能性と、課題を以下のとおり整理した。

五島列島は、デジタルノマドにとって「滞在施設」「静かな自然環境」において非常に魅力的だと感じてもらえている。ツアー中触れ合った地域住民らとの交流にも評価が高かった。一方で、交通の利便性や情報提供の改善が進めば、より多様な層のノマドを受け入れることが可能となる。長期的には英語対応が可能な環境整備も必要となる。

可能性 | Opportunities

滞在施設

ホテルカラリト、The Pierの既存施設の評価は高く、デジタルノマドを受け入れるのに十分な施設がすでにあると言える。ワーケーション整備が進んでいるおかげで働く環境にも大きな課題はない。

静かな自然環境

デジタルノマドに人気のリゾート地（バリなど）とは違う静かな自然環境が評価された。都心にはない静かな自然環境を活かしたアクティビティの造成に受け入れを拡大する可能性があると言える。

コミュニティ

デジタルノマドはコミュニティとの接点を強く求めるが、英語でコミュニケーションが取れるコミュニティマネジャーの存在さえあれば五島でも地域と繋がり、交流が生まれ、高い評価につながる。

課題 | Challenges

アクセス

福岡や長崎からのアクセスにおいて英語対応が十分でなくアクセスが難しいという感触があるほか、島内では運転ができないと移動が困難であり、より簡易な移動手段のインフラ確保が必要である。

英語対応

島内で英語対応ができる人が限られており、日常生活において（食料品の調達など）一定程度のハードルがある。観光情報だけでなく島内での英語での表記を増やしていく必要がある。

情報発信

五島列島の情報がデジタルノマドの中にまだ広がっておらず、長期的にデジタルノマド受け入れを続け、五島列島の魅力を外国語で発信していく必要がある。台湾向けに中国語でも発信が必要。

課題解決に向けたアイデア

- デジタルノマド向け特設サイトを開設し「モデルプラン」「移動手段」「観光スポット」情報を提供する
- レンタカーをはじめとした交通案内について海外訪問者向けの外国語対応の情報を発信する。
- 完全個室型ワーキングスペースの導入を検討。集中作業に適した環境を提供を行う。
- 宿泊施設における長時間滞在者向けのプランを策定し、デジタルノマドに特化した柔軟な滞在オプションを提案していく。

3/5 関係者会議の開催

関係者会議は予定よりも多い５回開催した。

参加者（敬称略・順不同）

地域事業者
・株式会社 MONTECASA 山家 正
・株式会社 BORDER 桑田 隆介
・株式会社カラリト 貞包 喬、川床 愛
・株式会社いきいきファーム 屋代 綾子
・Mitake合同会社 橋下 賢太
・あこうハウス代表
　アーロン・ニコラス・サットン
・J House 古賀 和磨

国土交通省 九州運輸局 観光部国際観光課
- 観光部長 進藤 昭洋
- 観光部国際観光課長 水下 真理
- 観光部国際観光課 国際係長 松本 典将
- 観光部国際観光課 有島 朱音

五島市役所 地域振興部
- 地域振興部長 小田 昌広
- 地域振興部地域協働課 課長 谷合 眞治
- 移住定住促進班 係長 平野 梓
- 移住定住促進班 主査 谷 一也

株式会社 遊行
・代表取締役 大瀬良亮

株式会社 ノマドリゾート
・共同代表 松本知也 小吹智広

関係者会議の実施記録

関係者会議	議事内容要約
第１回関係者会議 2024年8月26日（月） 10:00~11:00 ハイブリッド開催	（１）参加者顔合わせ （２）事業内容に関する関係者への趣旨説明、質疑応答 ・デジタルノマドとはどんな存在か ・25日の懇親会で出たデジタルノマドのコメント共有 ・11月の視察の趣旨説明と質疑応答 （３）次回への申し伝え事項の確認
第２回関係者会議 2024年9月30日（月） 10:00~11:30 ハイブリッド開催	（１）デジタルノマドの紹介と意見交換（冒頭30分程度） （２）11月開催予定のモニターツアーの内容精査 （３）8月デジタルノマド来訪に関するアンケート調査結果の報告 （４）来年度に向けた整備計画の青写真の提案 （５）関係者会議のコアメンバーの確定 （６）事業全体進捗の確認・次回関係者会議に向けたアジェンダの確認
第３回関係者会議 2024年10月29日（火）10:00~11:30 オンライン開催	（１）Colive Fukuoka実施状況の共有 （２）参加者のプロフィール紹介 （３）Colive Fukuokaを通じて得た知見の共有
第４回関係者会議 2024年12月10日（火）10:00~11:30 オンライン会議	（１）モニターツアーの振り返り （２）次年度以降の青写真の共有 （３）地域事業者からの意見交換
第５回関係者会議 2024年3月11日（火）15:00~16:30 ハイブリッド開催	（１）最終成果報告会 （２）体制整備計画への意見交換 （３）来年に向けて情報整備

（写真）
関係者会議・懇親会

4/来年度以降の体制整備計画案

2025年は、デジタルノマド受け入れの基盤を確立する重要な年となる。本計画をもとに、コミュニティ形成・パッケージ化・情報発信・長期計画の策定を実施し、五島市を国際的なデジタルノマド拠点へと成長させていく。

1. Goto Nomad Community の結成

a. デジタルノマドの受け入れを継続的に支えるため、オンライン・オフライン双方のコミュニティ形成を進める。
   i. オンラインコミュニティの継続（WhatsApp, Discord）：関係者が集う場を維持し、五島市に興味を持つノマドや関係者と情報交換を行う。

b. 島内の意識醸成のための勉強会を開催
   i. 宿泊・観光・交通などの事業者を対象に、デジタルノマド受け入れの理解を深め、地域全体での受け入れ意識を醸成する。

2. 滞在プランのパッケージ化：「売れるデジタルノマド向けツアー」の確立

a. デジタルノマドにとって魅力的な滞在プランを整備し、販売可能なツアーパッケージとして確立する。
   i. 各滞在施設でノマドプランを作成
      1. 宿泊施設ごとに異なるワークスペースや滞在プログラムを用意し、多様なニーズに応える。
      2. 受け入れ体制の確認・レクチャー実施
      3. 各施設がノマド対応を強化し、受け入れの案内所となる施設を確立する。
      4. 英語対応の改善・情報整備
      5. 施設やサービスの英語対応を確認し、地図・ガイドを作成。

b. 「Goto Nomad Pass」のような、長期滞在向けの割引プランやサブスクリプション型のパッケージを検討。

a. 海外のノマド向け滞在施設の視察

3. 外国語での情報発信の強化

a. 五島市のデジタルノマド向け環境を広く認知させるため、プロモーションの充実を図る。
   i. プロモーション素材の作成：簡易ホームページを作成し、滞在施設・ワーク環境・アクティビティの情報を発信。
   ii. 「Digital Nomad Goto」のソーシャルコミュニケーションプラットフォームの立ち上げ。
   iii. 年1回のモニターツアーを実施
   iv. デジタルマーケティングの強化：デジタルパンフレットやフライヤーの制作、広告出稿、メディア記事掲載、動画コンテンツの制作。Webデザイナー・カメラマン・動画制作者の確保。
   v. オフラインプロモーション：東京・大阪・台北など大都市でのチラシ配布、イベント開催、旅行博などへの出展。

4. 3カ年計画のロードマップ作成

a. 長期的な視点でデジタルノマドの受け入れを拡大し、3年後に年間500名以上のノマド誘致を目指す。1年目は情報発信と基盤整備、2年目はツアーパッケージ販売、3年目にはリピーター獲得と持続可能な受け入れモデルの確立を目指す。

4/来年度以降の体制整備計画案

2025年から3年間をかけて、デジタルノマドの受け入れ体制を整備し、持続可能なコミュニティの形成と誘致戦略の確立を目指す。「土台づくり」「自走化の開始」「自走化の加速」の3つの段階に分け、2027年には年間500名以上のデジタルノマドを誘致し、持続可能な拠点としての地位を確立することを目標とする。

3カ年ロードマップ

1

2025

来島目標

5泊以上
20名以上

①Goto Digital Nomad Community 立ち上げ
- 関係者会議を発展させたコミュニティ拠点を公開、運営開始
- コミュニティマネジャー2名を配置
- 地域との交流機会を増やすコミュニティ整備を実施

②デジタルノマド向けパッケージの造成
- カラリト等での5泊以上滞在プラン、The Pierでの１ヶ月長期滞在プラン販売
- デジタルノマド向けのコワーキングや交通手段のパッケージを販売

③インフルエンサー・モニターツアーの実施
- 2025年10月にColive Fukuokaが終わった10月13日以降モニターツアー実施
- 台湾を中心としたデジタルノマドの誘致/欧米系デジタルノマド誘致

④ホームページ・SNSの立ち上げと運用開始
- 五島列島のデジタルノマドに必要な情報を取りまとめて発信
- オンラインイベント、海外への視察を通じた五島市のPRを実施

⑤デジタルノマド向けメディアへの情報発信
- デジタルノマド向けのメディアへの情報拡散を本格化

2

2026

デジタルノマドの誘致
受入の「自走化を開始」

受入：五島デジタルノマドコミュニティの自走化
- コミュニティマネジャー主催の企画内容の実施
- Discordなどのコミュニティチャネルでの交流数100件以上
- 日本・アジアへのメディア露出

誘致：デジタルノマドに対してのGOTOをPR
- 年1回のフックイベントの開催
- 10名（5泊以上）の五島コミュニティきっかけの誘客
- 30名（5泊以上）のデジタルノマドの誘客

3

2027

デジタルノマドの誘致
受入の「自走化を加速」

受入：コミュニティによる事業の自走化
- 海外デジタルノマドを受入側に巻き込んだ体制づくり
- 海外メディア露出を複数件創出

誘致：デジタルノマドに対してのGOTOのフックをPR
- 年1回のフックイベントの開催
- 20名（5泊以上）の再訪デジタルノマドの誘客
- 40名（5泊以上）の新規デジタルノマドの誘客
- 日本最大の自治体SNSアカウントのフォロワー数の獲得

5/総括

本事業は、五島市におけるデジタルノマドの受入を通じて、持続可能な観光の推進と地域経済の活性化を目的として実施された。五島市は豊かな自然環境と独自の歴史・文化、温かい地域コミュニティを備えており、国内のワーケーション市場において既に一定の受け入れ基盤が整っておりデジタルノマドにとっても快適な滞在環境を提供できるポテンシャルを持つと考えられ、これは他地域でも近しい可能性が秘められている。本事業では、情報発信、受入環境の整備、地域コミュニティとの連携、持続可能な誘致戦略の策定を進め、デジタルノマドにとって魅力的な滞在地へと発展させるための基盤について整備計画の策定を行なった。以下に、本事業を通じて得られた主な成果及び他地域での横展開にあたっての必要な要素をまとめる。

コミュニティ形成と関係者会議の設立

世界中のデジタルノマド人気地において、最も重要視されるポイントは「コミュニティ」である。五島市ではコミュニティマネージャーの育成とオンラインプラットフォーム（WhatsApp）の地域立ち上げにより、デジタルノマド同士および地域住民との交流の場が生み出した。これにより地域とデジタルノマドが直接コミュニケーションを取る機会が生まれ、相互理解が進んだ。また、地域に住む2名がコミュニティマネージャー育成講座（CMA）を受講し、英語での対応力を向上。さらに、タイ・チェンマイでのデジタルノマドとの接点を複数回創出するなど、今後の受け入れに向けた具体的な実績を積むことができた。関係者会議の開催を通じて、地域の受け入れリテラシーが向上し、地域で新たなアイデア創出につながった点も、本事業の大きな成果のひとつである。

滞在施設・アクティビティの受け入れ体制の改善

モニターツアーでは、五島市の自然体験（ハイキングや星空鑑賞など）や地域文化体験（地元住民との交流イベント、写真現像ワークショップなど）が特に高評価を得た。これまで国内向けに展開されていたアクティビティを海外向けに提供することで、自然の力が言語の壁を超え地域とのつながりを強化するとともに、地元事業者との連携を深める機会となった。また、デジタルノマドの受入は、従来の観光客とは異なるニーズを持つため、地域事業者にとって新たな課題が浮き彫りとなった（観光客とは違う距離感）。このフィードバックを受け、各事業者からは「デジタルノマド向けの滞在パッケージ」を開発したいとの声が上がり、来年度以降のプロモーション展開に向けた具体的な一歩を踏み出すことができた。

情報発信・プロモーションの基礎整備

デジタルノマド向けの英語版Webサイトの開設やSNS運用の基礎を整備しただけでなく、五島市のプロモーションに「適した」インフルエンサーの選定基準が明確になり、今後のマーケティング戦略の方向性が見えてきた。特に、五島では写真家や台湾市場向けのプロモーションが効果的であることが判明し、ターゲット層を明確にした発信戦略の構築につながった。各地域において「ターゲットを明確化する」議論が必要だと考える。

長期的な課題の明確化

情報提供における多言語対応の強化や、島内外の交通アクセスの利便性向上が重要な課題として浮上した。特に、飛行機やフェリーの便数増加が難しい状況にあるため、デジタルノマドが最適な移動手段を選べるよう、事前案内の充実が求められる。これをコミュニティでサポートする体制が必要となる。また、地域と自治体との連携を強化し、五島市内の施設やサービスの外国語対応を提案していく。

2025年からの3カ年ロードマップに沿って、持続可能な誘致と受け入れの自走化を進め、2027年には年間500名以上のデジタルノマドを誘致することを目標とする。五島市が「地域とのつながりを重視するデジタルノマドのための特別な拠点」として国内外で認知されることを目指し、地域一体となった取り組みを継続していく。